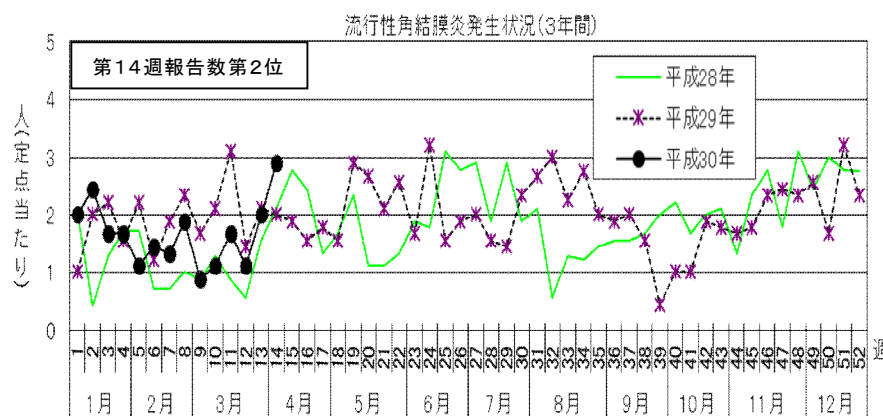
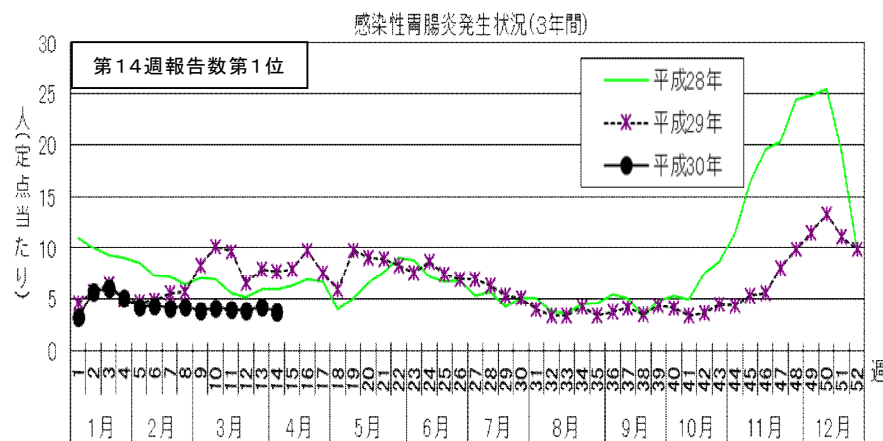


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年4月2日（月）～平成30年4月8日（日）〔平成30年第14週〕の感染症発生状況

第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.68人と前週（4.22人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.89人と前週（2.00人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.70人と前週（2.32人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



ワクチン接種はお早めに！～麻しん～

麻しんは、麻しんウイルスを原因とする急性の熱性発疹性疾患です。現在、東南アジアやヨーロッパをはじめとする様々な地域で流行がみられており、国内でも、輸入例を発端とした流行が沖縄県で発生しています。

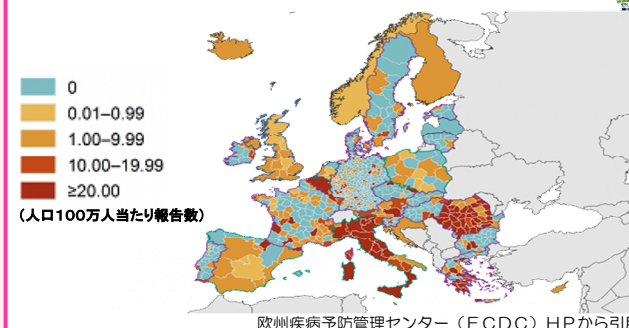
予防にはワクチンが有効ですが、効果が出るまでに接種後2週間程度かかるため、定期予防接種の対象者やゴールデンウィークに流行地に渡航される方は、早めの接種をおすすめします。

麻しんとは？

- 感染経路
空気感染、飛沫感染、接触感染
- 潜伏期間
7～18日（最長21日程度）
- 主な症状
発熱、結膜充血、咳、鼻水、発疹など（風邪様症状で始まり、38℃程度の発熱が2～3日続いた後やや低下し、再び39℃以上の高熱と共に発疹が出現します。）
- 合併症
肺炎、中耳炎、脳炎*、亜急性硬化性全脳炎**
（*1000人に1人程度、**10万人に1人程度）



ヨーロッパにおける麻しんの発生状況(2017年)



麻しん・風しん(MR)定期予防接種の対象者

- 【第1期】
生後12月から生後24月に至るまでの間にある者
- 【第2期】
小学校入学前の年度1年間
（4月1日～翌年3月31日）

